

8
Rd.

SEP 2012

RACING
PRESS
apan

2012 AUTOBACS SUPER GT ROUND 8
MOTEGI GT 250Km RACE



SUPER GT

2012 Round 8 MOTEGI



ついに最終戦を迎えた2012年のSUPER GT。戦いの舞台は栃木・ツインリンクもてぎ。すでに第7戦・オートポリスで王者が決定しているため、各車、自らの目標に向かってシビアでタフな戦いが繰り広げられることになった。

SUPER GT 250Km RACE 10/27-28

Editor	Photo
吉川朝恵	鉄谷康博
	加藤公丸
Special Text	中村佳史
島村元子	近江 勲

2012 GT500 シリーズチャンピオンは S Road GT-R

2年連続のタイトルを獲得

最終戦は緊迫のバトルの結果、
2位でフィニッシュ



GT500

ZENT SC430が ポール・トゥ・ウインの圧勝

ツインリンクもてぎ

TWIN



予選で驚愕の最速スピードを披露したのは、No.38 ZENT CERUMO SC430の立川祐路。秋晴れに恵まれる中、ノックアウト予選で従来のコースレコードを約2.6秒も上回る好タイムをマーク！同時に自身17回目のPP獲得を果たす活躍を見せた。

決勝は前日から天候が一転、セーフティカーランによるスタートが切られた。トップの38号車は決勝でも力強い走り続け、トップに君臨。一方で後方からは2年連続でタイトルを手にしたNo.1 S Road REITO MOLA GT-Rが追い上げる。

トップ2台はともにタイヤ無交換で応戦。緊迫のバトルとなったが、コースレイアウトから逆転が難しいもてぎを味方につけた38号車が逃げ切り！開幕戦に続く2勝目をあげた。2位には1号車、3位はNo.32 EPSON HSV-010が入った。



GT500

GT500 決勝結果

優勝	No.38	ZENT CERUMO SC430	立川祐路 / 平手晃平
2位	No.1	S Road REITO MOLA GT-R	柳田真孝 / ロニー・ウンタレツリ
3位	No.32	EPSON HSV-010	道上 龍 / 中山友貴
4位	No.39	DENSO KOBELCO SC430	監阪寿一 / 石浦宏明
5位	No.19	WedsSport ADVAN SC430	荒 聖治 / アンドレ・クート
6位	No.23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲 / ミハエル・クル

ツインリンクもてぎ

DA Dreams

GT500



2nd



3rd



今季初勝利のNo.911

エンドレスTAISAN 911が王者に!



予選でNo.33 HANKOOK PORSCHEがポールを獲得、チャンピオン争いで追う立場のNo.911 エンドレス TAISAN 911が2位と、ガチバトルを展開したGT300。決勝は雨に苦戦する33号車を尻目に911号車がトップをキープ。終盤、他車とのバトルになるも見事にシャットアウト、劇的逆転王者に輝いた。

GT300



リンクもてぎ

RING MOTEGI

GT300 決勝結果

優勝	No.911	ENDLESS TAISAN 911	峰尾恭輔 / 横溝直輝
2位	No.87	JLOC ランボルギーニ GT3	山西康司 / 山内英輝
3位	No.88	マネバランボルギーニ GT3	織戸 学 / 青木孝行
4位	No.0	GSR 初音ミクBMW	谷口信輝 / 片岡龍也
5位	No.66	triple a Vantage GT3	吉本大樹 / 星野一樹
6位	No.3	S-Road NDDP GT-R	関口雄飛 / 千代勝正



GT300

THE TEAM

CLOSE-UP

Team

LEXUS TEAM SARD

大澤 尚輔

Text by M.Shimamura

Photo: Y.Tetsutani / K.Kato / T.Omi



チームスタッフとしての豊富なレース参戦を活かし、 名門チームのボトムアップに奔走中

SUPER GTでSARDと聞けば、名門チームとしてイメージするレースファンは多い。何しろ1972年にシグマオートモーティブとして会社が設立され、国内レースではなく、耐久レースの頂点として君臨するフランスのル・マン24時間レースに日本人として初参戦を果たしたチームでもあり、つねにチャレンジャーとして様々なプロジェクトに取り組んでいる。サードへと社名変更したのは、1985年。このシーズンにはSARD SUPRAでグループAに参戦、さらに翌年はSARD MC86XでグループCにも挑戦している。同時にル・マンへのチャレンジも忘れることなく、レース活動に携わっているチームだ。

2007年にGT参戦100戦目を超えたチームだが、ここ数年は若手ドライバーを積極的に採用。また、2011年からは装着タイヤをミシュランに変更するなど、さまざまな形からレースにトライする姿も記憶に新しい。今シーズンはチャンピオン経験豊富なベテラン・脇阪寿一を迎え

入れ、ミシュランタイヤを開発してきた石浦宏明とともに大活躍。この新コンビがドライブするNo.39 DENSO KOBELCO SC430は、第2戦富士で早々に優勝を果たすなど、チームも上昇気流に乗ってきた。

そして、このチームを束ねているのが、大澤尚輔監督だ。チーム体制がガラリと変わった2011年、自身もクラフトから新たに着任、様々な課題に取り組みながら次なる体制作りへと邁進している。長らくトヨタ関係のチームに携わっていたこともあり、ドライバーとのコミュニケーションもお手のもの。かつてはライバルチームで激しくやりあったという脇阪らと、常勝チーム作りに積極的に取り組んでいる。

今季は第2戦富士での勝利のあと、幾度となく勝てるチャンスをあと一步で逃すなど、惜しいレース展開もあった。シリーズランキング3位という戦歴に甘んじることなく、来シーズンはさらなる飛躍を目論んでいるチームだ

No.39 DENSO KOBELCO SC430



石浦宏明選手



脇阪寿一選手